

令和2年12月15日

## 加賀市障がい者基幹相談支援センター運営推進会議 会議録

加賀市障がい者基幹相談支援センター職員から、事業報告書の内容を説明の後、参加して頂いた委員間で「意見交換」を行った。

内容は以下のとおりであった。

Q： 「しくミーティング」とは何か？説明してほしい。

(こまつ障害者就業・生活支援センター 富田氏)

A： 週2回ふれあい福祉課と基幹センターとで行っているミーティングの名称である。2回するうち1つは、ふれあい福祉課や基幹センターが受けた新規ケースの動きの整理をするミーティングを「ふれあいミーティング」と言う。もう1つが、基幹センターの業務内容として行う、障がい福祉を取り巻く仕組みをどう整えていくかなど、体制整備を含め話し合いをする「しくミーティング」である。様々な仕組みのことを考える会議であるため、「しくミーティング」と呼んでいる。

(基幹センター 坂井)

Q： 計画相談支援について、サービスを利用している方の割合から相談員を割ると、相談員1人に対し60件と多い。基本相談支援でサービスを利用していない方の相談も多いため、人員が不足していると感じる。どういう点で相談支援専門員を増やさなければいけないと考えているか？

(オープンセサミ錦城 喜多氏)

A： 計画相談支援、基本相談支援での負担が多く、新規ケースが入ってきても、即座に対応がしづらい状況にある。利用者のあらゆるニーズに、速やかに応えるためには、今よりも相談支援専門員を増やす必要があると感じている。

(基幹センター 堂前)

A： 介護保険のケアマネジャーは、1人あたり35件である。障害福祉サービスにおいて、基本相談支援もあるなか、モニタリングが毎月実施している方もおり、計画相談支援の利用者が、一人あたり60件と言うのはとても多く、負担が大きい。この課題は、これまで相談事業所等連絡会など、相談支援事業所の中だけの課題であったが、今後は、地域ケア会議や、他の事業所の管理者にも伝えていくなどして、課題検討していく機会をつくっていく必要がある。相談支援専門員を増やしていけるような働きかけを継続していく必要がある。

(基幹センター 岩尾)

Q： 後方支援をしてもらっているが、各相談支援事業所として、もう少し頑張らないといけないところがあるのか、人材育成も含め頑張してほしいところがあれば教えてほしい。

(オープンセサミ錦城 喜多氏)

A： それぞれの相談支援専門員が一人で抱えるには難しい事例がとても多い。事業所内で対応することが難しいケースについては、当センターと一緒に考える機会があればいいと考えている。

(基幹センター 堂前)

Q： 資料にある「全体の総括」の、ピアサポーターの活躍という点について、加賀市でも当事者支援に力を入れている中で、「茶話会」以外で何か考えがあれば教えてほしい。

(オープンセサミ錦城 喜多氏)

A： 「茶話会」の取組は、こころの病院と協力しながら行っている。今後は、退院する方の退院支援など、個別支援に関与して頂けるような機会を増やしていきたい。地域移行支援会議でも具体的に検討・協議し、ピアサポーターが活躍できる機会を増やしていかないといけない。

(基幹センター 堂前)

感想： 基幹センターが色々と仕組みをつくってくれている。公正中立の立場に立ち、支援者を働きやすくしてくれていると思った。

(オープンセサミ錦城 喜多氏)

Q： 基幹センターが、多方面で色々な取り組みをしていることが分かった。報告があったような業務を二人で担えるのか？基幹センターで抱えているのではないか？これから体制整備（仕組みづくりを含め）が、具体的に動いていくとなると、二人で対応するのがより難しくなるのではないか？これからの課題を教えてほしい。

(加賀こころの病院 蔭西氏)

A： 基幹センターの業務実態として、個別ケースの対応（初期相談ケース、いわゆる困難ケースなど）が多い。市が相談窓口となっていたが、基幹センターとして取り組んでみて、本当に大変だと感じている。今後、加賀市全体で相談支援の仕組みを考える必要がある。基幹センターとしては、これ以上人は増やせないのが、大きな課題である。基幹センターの役割としては、個別支援の対応も大切だが、同時に体制づくりにも力を注いでいく。市、じりつ支援協議会を含めて、検討していきたい。

(基幹センター 岩尾)

Q： 基幹センターは、会議を沢山行っていると感じた。人員が少ない中で、今後会議がまだ増えていく可能性があるのではないか。会議の数が多く、業務に追われないか、今後はもう少し精査した方がいいと思った。

資料上、「福祉課」と出ているが、「ふれあい福祉課」か、「地域福祉課」なのか、紛らわしく感じた。

(社会福祉協議会 谷村氏)

A： 会議を合理化しようと思っているので、来年度の報告で、合理化できた報告ができるよう取り組みたい。

(基幹センター 岩尾)

感想： 基幹センターがどんなことをしているかが分かった。これからも頑張ってもらいたい。

(悠々歩み会 坂下氏)

感想： 市の担当も含め、会議が多いと感じる。会議は情報共有のために必要だが、会議で人が足りないのか、うまく回っているのか、会議に追われているように感じた。

また、相談支援の体制は、市としても高齢や児童の連携も含め、今後考えていく必要がある。

(加賀市役所 奥野氏)